

三条教区通信

第 52 号

発行日 2011年10月1日
 発行者 三条教務所長 鷲尾 幸雄
 発行所 真宗大谷派三条教務所
 〒955-0071 三条市本町 2-1-57
 E-mail: sanjo@higashihonganji.or.jp
 URL: <http://www.gobosama.net>

★本通信は上記 URL からご覧いただけます。

今月の法語

[法語カレンダーより]

雑行を棄てて 本願に帰す

『教行信証』『化身土巻』真宗聖典 399 頁

7月新潟・福島豪雨御見舞い

このたびの豪雨で被害を受けられた方々に心からお見舞い申し上げます。

寺院からご報告いただきました教区内の被害は以下のとおりです。

【寺院の被害】

- 第10組 善勝寺 屋根瓦破損による雨漏り
- 第14組 西樂寺 境内冠水
- 第15組 長泉寺 床下浸水、境内・墓地冠水
- 第15組 専照寺 墓地冠水
- 第15組 浄覚寺 駐車場・裏山土砂崩れ

【門徒の被害】

組	床上浸水	床下浸水
第10組		1
第11組	2	2
第12組	1	1
第13組	14	79
第14組	3	5
第15組	50	174
第16組		1
第18組	2	
第20組	1	1
第24組	57	93
合計	130	357

その他、第24組内で家屋の全壊2軒、一部破損5軒、半壊3軒。各組において、田畑、店舗、車庫、車への浸水被害多数。

(2011年9月26日現在)

東北地方太平洋沖地震 救援と復興支援

①三条教区救援金募金[教区内で募金・保管中]

10,276,037円

(2011年9月26日現在)

②三条教区救援金[教区災害対策積立金から本山へ送金済]

10,000,000円

③三条教区の寺院教会・門徒から本山へ直接送られた救援金額[累計]

13,575,254円

(2011年6月30日現在)

②、③につきましては、既に本山へ送金した金額ですが、①につきましては継続募金を行っております。引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

以上ご報告いたしますとともに御礼申し上げます。

宗祖親鸞聖人七百五十回御正当報恩講

2011年

讃仰音楽法要	11月19日(土)・20日(日)
御正当報恩講	11月21日(月)～11月28日(月)
御本尊動座式	11月29日(火)

東北地方太平洋沖地震の被害と福島第一原子力発電所の事故により御遠忌第1期法要が中止となりましたことから、上山がかなわなかった方々にも、共に御遠忌の仏縁にお会いいただく場となりますことを願い、「宗祖親鸞聖人七百五十回御正当報恩講」「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌讃仰音楽法要」「御本尊動座式」が真宗本廟において、お勤まりになります。

【真宗本廟両堂等御修復のスケジュール】

阿弥陀堂工事 2012年1月着工～2015年末竣工予定

御影堂門工事 2013年1月着工～2015年末竣工予定

御本尊還座式 2016年春頃予定

御修復事業完了奉告法要 2016年春頃予定

研修会のご案内

■教区推進員研修会 開催案内既送

- ◆日時 2011年10月3日(月)
- ◆会場 三条別院
- ◆講師 田口 弘 氏
- ◆講題 念仏者の「お仕事」
- ◆問合せ 三条教務所(担当:藤波、森)まで
〔主催:教化委員会推進員研修会部門〕

■秋季声明講習会 開催案内既送

- ◆日時 2011年10月5日(水)9:30~16:00
- ◆会場 教区同朋会館
- ◆講師 藤澤 善夫 氏(御堂衆)
- ◆内要 一般寺院における報恩講の勤め方
- ◆参加費 500円
- ◆問合せ 三条教務所(担当:五辻)まで
〔主催:教化委員会声明講習会部門〕

■歴史講座 開催案内既送

- ◆日時 2011年10月6日(木)14:00~17:00
- ◆会場 三条別院本堂
- ◆講師 藤井 学昭 氏
(茨城県東海村 願船寺住職)
- ◆内要 原発問題から問われていること
- ◆参加費 500円
- ◆問合せ 三条教務所(担当:五辻)まで
〔主催:教化委員会靖国問題研修会部門〕

■長岡地区女性研修会 開催案内既送

- ◆日時 2011年10月7日(金)
- ◆会場 第13組善行寺(長岡市宮原2-3-14)
- ◆講師 里村 専精 氏
(第20組最福寺前住職)
- ◆講題 「韋提希に学ぶ一思いを超えた現実と観
無量寿経の救い」
- ◆問合せ 三条教務所(担当:史陀)まで
〔主催:教化委員会女性研修会部門〕

■「差別と真宗」交流学習会Ⅱ 開催案内既送

- ◆日時 2011年10月13日(木)~14日(金)
- ◆会場 仙台教区眞行寺
- ◆講師 佐々木道範氏
(仙台教区中組眞行寺衆徒 仙台教区仏青会長)
- ◆テーマ 「原発事故と放射能」
- ◆参加費 15,000円
- ◆問合せ 三条教務所(担当:史陀・藤波)まで
〔主催:教化委員会「差別と真宗」共学研修会部門〕

■第31回法灯の集い 開催案内同封

- ◆日時 2011年12月5日(月)~6日(火)

- ◆会場 割烹の宿 湖畔
- ◆講師 今泉 温資 氏(往生人舎主催)
- ◆講題 「悪を転じ徳となす正智一被災地にぬくもり
あれ、希望あれ」
- ◆問合せ 三条教務所(担当:藤波まで)
〔主催:三条教区推進員連絡協議会〕

■秋安居 開催案内後日送付

- ◆日時 2011年12月13日(火)~14日(水)
- ◆会場 三条教区同朋会館
- ◆講師 名畑 崇 氏(本年度安居本講師)
- ◆講題 『教行信証』成立の背景一願浄土方便化
身土文類私考一
- ◆テキスト 『2011年度安居講録』500円
- ◆参加費 500円
- ◆問合せ 三条教務所(担当:森まで)
- ※事前学習会を10月26日(水)14時から教区同朋
会館にて行います(持ち物:真宗聖典、安居講録)
〔主催:教学研究会部門〕

教化委員会からのお知らせ

「差別と真宗」共学部門研修交流学習会Ⅰ開催
「福島原発事故と放射能」をテーマに

1 なぜ「差別と真宗」共学研修部門で福島原発事故 問題なのか

9月12日、三条教区同朋会館において、上宮修清氏を講師にお招きし、講演会が開催されました。「差別と真宗」共学研修部門は今まで、部落差別問題を中心にハンセン病もと患者に対する大谷派のとりくみや女性差別の問題など「差別」の問題を中心に学んできましたが、今年度の研修では福島原発事故に焦点を絞って学ぶことになりました。このことについて、スタッフの村山教二さんから、なぜいま、「差別と真宗」共学研修部門で福島原発事故の問題を考えなければならないのか、ということについての趣旨説明を行っていただきました。



3. 11直後からさまざまな形で噴出した福島県人や福島県産の野菜などに対する差別的な対応、福島県からの転入者に放射能検査を義務付けようとしたつくば市。福島ナンバーの車に対する嫌がらせ、大文字の送り火での過剰反応、鉢呂もと経産相の更迭…枚挙にいとまないこういった事例は、すぐれて「差別と真宗」共学研修の重要な課題という認識を持つ必要があります。

2 原発事故に何を学ぶか —講演要旨—

上宮修清先生は、高田教区第2組善正寺のご住職ですが、自坊に入られるまでは新潟大学農学部で教鞭をとっておられた農芸化学、放射能問題の専門家です。

先生は、まず冒頭に、宗祖の「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろずのこと、みなもって、そらごとたわごと」(『聖典 640 頁』)を引かれ、政府や電力会社が「安全」と強弁し続けてきた原発が、今回の事故を引きおこしたことについて、人間の行うことについて「絶対」はありえないこと、そして、教行信証の「ああ夢幻にして真にあらず、寿夭にして保ちがたし。呼吸の頃に、すなわちこれ来生なり。一たび人身を失いつれば、万劫にも復せず」(『聖典』183頁)のお言葉が身にしみて感じられたことから説き起こされました。パワーポイントを用い、極力平易なことば遣いを心がけられて、福島原発の事故の特徴、放出された放射能物質の特徴とその危険性をご説明いただきましたが、その概要は次の通りです。

まず、①放射性物質、放射線、放射能、②原子と原子核、ということについての説明の後、③核分裂と原子力発電について述べられ、原子力発電のしくみを提示いただき、さらに、④原子力発電における安全性の原則は、1.止めること、2.冷やすこと、3.閉じこめることの3つなのですが、今回の福島原発事故では、「冷やすこと」と「閉じこめること」に失敗したために起こった事故であること、そして、⑤放射線が人体に及ぼす影響についてはまず、「ベクレル」「シーベルト」という単位の概要を簡単に説明された後、外部被曝と内部被曝の特徴とその影響の深刻さについてお話し頂きました。

先生は、この度の福島原発の事故の深刻さを通して何を学ぶべきか、という点について、人類の長年の努力のたまものである科学技術の発達が悪いのではなく、それを使う人間に問題があること、安全性を強調しながらも、結局は都会での原発立地を避ける心理、平和利用をいいながらも結果的に商業利用してきた私たちに、責任があるのではないか、ということ、そして正しい知識の不足や誤った認識によって、危険で

もないものを「危険」として排除し、差別する風潮に私たちがどのように向き合うのか、という大きな問題を提起されました。

3 終わりに

他の研修会に比して多くの参加者があったのは、福島原発事故問題という喫緊の課題がテーマであったことが大きくはたらいていたからだと考えられます。講演が終わってからの質疑の数も多く、またその内容も深いものがあって、参加者の関心の深さがうかがえました。真宗門徒として、また科学者として、この問題をどのように考えるか、という先生の真摯なお話、私たちはいま何をなすべきか、という深い示唆をいただきました。

多忙な日常を差し繰って、今回のご講演を頂いた上宮先生に深く感謝申し上げる次第です。

(「差別と真宗」共学研修会部門スタッフ 中島義紘)

教務所からのお知らせ

◎ラジオ放送「東本願寺の時間」について

宗派が 1951 年 11 月よりラジオ伝道として放送している「東本願寺の時間」について、吉運堂様のご提供により、新潟県でもお聞きいただけます。

◎テーマ 「今、いのちがあなたを生きている」

◎講師 ☆9/18～10/29 日野賢之 氏(小松教区)
☆10/30～12/10 藤場芳子 氏(金沢教区)
(変更になる場合があります)

◎放送局 BSN新潟放送

*新潟県全県をカバー

・小出エリア 1026KHz

・中越エリア 1062KHz

・下越エリア 1116KHz

・塩沢エリア 1485KHz

・上越エリア 1530KHz

◎時間 毎週金曜日 5:00～5:10

◎提供 吉運堂様

◎教区行事予定表

2011年	
10/1(土)	真宗学院 ～2日 宗徧流茶会
10/3(月)	教区推進員研修会
10/5(水)	秋季声明講習会
10/6(木)	歴史講座
10/7(金)	長岡地区女性研修会
10/8(土)	真宗学院 19組推進員養成講座
10/12(水)	御遠忌検討委員会
10/13(木)	～14日「差別と真宗」交流学習会
10/15(土)	真宗学院

10/22(土)	真宗学院
10/29(土)	真宗学院
11/5(土)	～8日 三条別院報恩講 真宗学院生参拝
11/12(土)	真宗学院
11/19(土)	真宗学院 19組推進員養成講座
11/26(土)	真宗学院
12/2(金)	～4日 19組養成講座後期上山
12/3(土)	真宗学院
12/5(月)	～6日 法灯の集い
12/10(土)	真宗学院
12/13(火)	～14日 秋安居
12/17(土)	真宗学院学年末試験
12/31(土) 23:45	大晦日 三条別院除夜の鐘
2012年 同朋会運動50周年	
1/1(日) 00:00	三条別院修正会
1/30(月)	園長設置者研修会
2/25(土)	～26日 真宗学院一泊研修会 保育講習会
2/9(木)	組門徒会員選定期間終了
3/9(金)	組門徒会員任期満了
3/10(土)	～26日 教区門徒会員選定期間
3/31(土)	教区門徒会員・教区監事(常任委員会選出)任期満了
4/30(月)	参議会議員任期満了
6/2(土)	保育大会

*行事日程(会場)重複を防ぐ便宜上、教区・別院主催以外の行事が一部含まれています。また、日程は変更される場合があります。

駐在教導のつづき

～藤波法英～

先日、新潟県立万代島美術館で行われている展覧会「藤城清治(ふじしろせいじ)の光と影のシンフォニー」を見に行った。藤城清治は日本を代表する影絵作家で、小人や猫などをモチーフにしたかわいらしい絵本、そして緻密な風景画などで知られている。また、1960年代に流行したカエルをモチーフにしたキャラクター、「ケロヨン」の原作者でもある(その頃私はまだ生まれていない・・・)▼普段、展覧会など縁のない私であるが、コンビニエンスストアに貼り出されていたきれいな宣伝ポスターを見かけたことと、以前、お笑い芸人の太田光(爆笑問題)との合作で絵本を発表したと話題を呼んでいたということもあいまって、どんなものかと思いきや見に行きたくなったのだった▼影絵といえば、単純に後ろから電灯の光を照らして平面的な画像が浮かび上がっているのかと思っていたが、実物は緻密に切りだされた絵と、幾重にも重ねられたカラーフィル

ターの効果で立体的に演出されていた。どんな芸術作品であっても“見られれば満足”という程度でざらりと見飛ばしていく私なのだが、安易な想像をくつがえしてくれた光と色彩の世界に引き込まれてじっくりと見て回った▼藤城清治の作品に限ったことではないが、思い返してみると、家でも職場でも私が四六時中目にしているものはパソコンやテレビの画面ばかりだったように思う。しかし、この度目にしたのは、電灯こそ使っているものの、人の手による作品であった。そしてそれが私の眼を喜ばせ、心に栄養をもらえた気がした。不思議なもので、そんな時は実際の空の青さや木々の緑がかえって深まって見えるものだ▼今さらコンピューターグラフィックを否定するつもりは少しもないが、そういうものにすっかり囲まれて生活しているからこそ、時には人の手で作られた絵や作品、そして生の自然を見ることを心がけたいと思うところだ。

*藤城清治の新潟での展覧会は4年前にも行われたそうで、すでに目にされた方も多いかと思いますが、今回の展覧会は10月10日まで行われています。よかったらご覧になってみてはいかがでしょうか。

所員のささやき ～小山恵子～

東日本大震災からはや半年、先の見えない状況に依然変わりはなく、つらい思いをされている方々を想うと、切ない気持ちでいっぱいです▼そんな中、人生の先輩たちの知恵に感動した。現役を退いた、こころざしのある人達が震災の復興支援隊を結成し現地で働いている。放射能汚染の中にあっても、若年者に比べ、将来への体のリスク(危険度)が多少少ないこと。高度経済成長の中で習得させてもらった技術がある。それを以って家庭を支えることができた、その恩返しをしたいという思い。経済成長を支えてきた電力事業、それを担ってくれた被災地の役に立ちたいと活動をしているという。年を重ねる中で、苦難を乗り越えてきたからこそ培われたであろう知恵と行動力▼『恩送り』という言葉思い出した。良識ある日本人・日本人の品格の高さを表した素晴らしい言葉だ▼「恩送りとは、誰かから受けた恩を、直接その人に返すのではなく、別の人に送ること。誰かから受けた恩を、自分は別の人に送る。そしてその送られた人がさらに別の人に渡す。そうして「恩」が世の中をぐるぐる回ってゆくということ。「情けは人の為ならず」と同義。日本人が古くから持っている良識のひとつ)出典:フリー百科事典『ウィキペディア』▼震災を機に、人とのつながりを意識し、絆が深まったと、聞く。社会は一人一人の人間の集まりにすぎない。社会をよくする方法は、その構成員である一人一人の人間が知恵を持ち、社会の中で恩を送って

絆を深めていくこと、それ以外にない。特別なことではなく、昔から日本人が身に着けていた良識である。人生の先輩の知恵に学ぶことが、少しでも早い社会の復興につながると思う▼最近の読書で『星の王子さま』の作者サン・テグジュペリの言葉にふれた。「地球は、私たちが祖先からもらったものでもないし、私たちのものでもない。この地球は未来の子どもたちから私たちが借りているものなのだ」と書いてある。まさしく、いまこの地球で暮らしている私たちは地球環境が大きく壊れつつあることを理解し、一人一人が自分の実力の中で、地球の為に今できることを今すぐ始めなくては取り返しのつかないことになるのかもしれない。震災を機に色々なことに気づかせてもらった。

新潟親鸞学会からのお知らせ

新潟親鸞学会親鸞聖人 750 回ご遠忌記念事業 「親鸞となむの大地展」 実行委員会の組織について

2014(平成 26 年)4月 26 日(土)～6月8日(日) 県立歴史博物館(予定)で開く特別展「親鸞となむの大地展―越後と佐渡の精神的風土―」を実現するための実行委員会が、既報のように7月 29 日(金)県立歴史博物館講堂で設立されました。

この実行委員会で役員が次のように選出されました。(敬称略・順不同)

実行委員長(1名)	里村專精(大谷派)
副実行委員長(2名)	廣澤憲隆(仏光寺派) 田子了祐(本願寺派)
本部事務局長(1名)	富沢慶榮(大谷派)
本部副事務局長(4名)	金子正美(大谷派) 木曾 隆(本願寺派) 木村邦和(大谷派) 直江智成(大谷派)
監 事 (2名)	稲田善昭(浄興寺派) 頓所是正(本願寺派)

また、この実行委員会は、広い県域をカバーするため、新潟・長岡・上越の3地区にそれぞれ地区委員会を設置することになりました。但し新潟地区については本部がそのまま兼任することになりました。各地区の役員は次の通りです(敬称略・順不同)

長岡地区委員長(1名)	木村邦和(大谷派)
副委員長(1名)	木曾 隆(本願寺派)
事務局長(1名)	鷲尾耕一(大谷派)
上越地区委員長(1名)	金子正美(大谷派)

副委員長(1名)	直江智成(大谷派)
事務局長(1名)	安達 恩(大谷派)
新潟地区委員長(1名)	里村專精(大谷派)
副委員長(1名)	廣澤憲隆(仏光寺派)
事務局長(1名)	富沢慶榮(大谷派)

なお、この特別展「親鸞となむの大地展―越後と佐渡の精神的風土―」の展示内容を調査検討する機関として、県立歴史博物館との間で展示史料調査委員会が設置されており、その展示監修には、次のお二人に就任していただいています。

監修／里村專精(新潟親鸞学会会長)先生
矢田俊文(新潟大学教授兼新潟大学付属図書館長)先生

以上の内部組織を基礎とし、今後、教団連合や各派ご本山、さらには新潟日報社など関連する多方面の協力を得て、この展覧会は、親鸞聖人と越後・佐渡の門徒の歴史を、県内外に知らしめる画期的特別展となります。ご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

【親鸞学会入会の申し込み・お問い合わせ】

新潟親鸞学会事務局／超願寺内(〒951-8061 新潟市中央区西堀通二番町 ☎025-222-2820

新潟親鸞学会デスク：

<http://niigata-shinran.cocolog-nifty.com/blog/>

三条仏青有志会ボランティア

◎三条仏青有志会からのご願いとお知らせ

先般、宗派の現地復興支援センターに被災者の方々の現状と今後の支援方法について伺いました。

現在は仮設住宅への入居も進み、これからの問題は仮設住宅で迎える冬の生活対策とのことです。そこで、このたびは日用消耗品、冬物衣料、暖房器具などを届けたいと考えております。また、放射能被害の広がる福島には安心な水(2L ペットボトル)を届けたいと思います。

つきましては皆様に物資または資金のご協力をいただきたくお願いいたします。物資・資金ともに三条教務所までお届けください。期限は10月8日(土)までとさせていただきます。

お寄せいただいた資金は、現地で必要な物資を購入するために使わせていただき、残金は宗派の現地復興支援センターを通じ被災者の皆様へお届けさせていただきますと考えております。

いつも急なお願いばかりで申し訳ありませんが、何卒ご協力のほどお願いいたします。

(三条仏青有志会連絡係 藤井信彰(14 組長楽寺)

shinsho@nct9.ne.jp